

9月の木材価格・需給動向

1. 国産材(北関東)

栃木県では原木生産は順調である。虫害の影響が少なくなり、皆伐作業への移行に伴い生産量は増える予定。入荷量は国有林材の入荷で昨年より増加している。今後伐採の本格化で良材の集荷も期待ができる。スギ材は原木不足により全体的に引き合いが強く、柱材、中目材共に強保合。3m柱材で15,000円台、4m中目材は16,000円台半で推移。ヒノキ材は3m柱材が21,000円台前半で続落傾向、4m中目材は25,000円台半で保合推移となっている。

群馬県では原木の出材が少ない。原木価格は虫害の発生により全体的に下落傾向。良材の集荷が困難であり、特にヒノキの4.0m90角105角用が少なく良材は価格も高い。スギは4m材の良材が上昇傾向にある。製材工場の原木在庫はスギ、ヒノキともに40%程度の在庫。受注は首都圏の製品市場向け、ビルダー向けとも回復。在庫はヒノキ4m90角・105角KDは少ないが、ガラ貫(3・4m×12×90)は荷余り傾向にある。

2. 米材

米国北西部ではワシントン州・オレゴン州などの山火事が落ち着き、今夏の出材期は順調に進んでいる。カナダBC州でも一部山火事による入山規制が出ているが、出材に大きな影響はない。港頭在庫は日本向けに過剰感や不足感は少ないが、カナダ国内向けの原木生産は州政府の方針および関税問題により極めて低調で港頭在庫は非常に少ない。カナダ産製材品に対する米国の反ダンピング課税+相殺関税は合計で35.19% (Canforは47.65%、West Fraserは26.47%) にて8月8日に確定した。これにより米国におけるカナダ産製材品価格は現在下落中となっている。カナダ産製材品へのさらなる追加関税は調査中であり、11月に調査結果が発表される予定。米マツIS級並の対日輸出価格(推定)は前月と同じく\$1,020/千SCRで決着した模様。ランダムレングス紙発表の15種平均価格(9/9)は\$401/Mで7月末に比べ7.8%の下落。7月の原木入荷は102千 m^3 と見通しより少なく、1~7月累計では931千 m^3 (前年同期比3.6%増)、うち米国产が614千 m^3 (同4.6%減)、カナダ産は317千 m^3 (同24.5%増)と大幅増加となった。出荷は152千 m^3 、1~7月累計は963千 m^3 (前年同期比3%増)で入超。在庫は144千 m^3 、在庫率は1.02ヵ月と前月から減少となっている。東京木材埠頭の8月米材製品入荷は10.3千 m^3 (前月比6.5%増)、出荷は8千 m^3 (同25.1%減)、在庫は28.6千 m^3 (同8.8%増)。

荷動きの鈍さから国内在庫は増えている。プレカット工場では秋以降エントリー多いとの話があるが、在庫減となるか不透明である。

3. 欧州材

第4・四半期の契約交渉が始まり、価格は若干の値上げが提示された。日本側の買い意欲は薄く、交渉は長期戦が必至。サプライヤー側は第4四半期も引き続き受注減となれば、一部売りたい商品の価格見直しを求められる可能性もある。間柱類の荷動きは低調、新規入荷玉のコストは高くなっているものの売値は据え置きに留まる。今後流通在庫が滞留すれば9月決算期をにらんで一旦値下げもあり得る。集成柱・梁の輸入コストは80,000円/m³を超えてくる。国内集成材メーカーはさらに値上げ傾向にあるが、足並みが揃うかがポイントである。東京港の7月製品入荷は17.0千m³と前月の19.8千m³に比べ減少。出荷は低調で13.9千m³と前月並み。在庫は39.1千m³と前月より増加し、10月頃までは入超となり在庫増になると予想される。

4. 北洋材

産地の8月の天候は平年並みで夏山伐採が進行中である。日本向け製材生産はアカマツ良材不足のため減少。中国の引合いは低水準。ウズベキスタン等の国内需要は建築シーズンのため活発化し、ルーブル高と相俟ってローグレード品は輸出価格と競合している。アカマツの原板は\$430~410/m³、完成品は\$580~560/m³で共にやや弱含み。国内の現地挽きアカマツ野縁製品価格は10万円台を維持。7月の製品入荷（東京+川崎）は16.1千m³と前月より増加したが、いよいよ夏場の入荷減が始まると見られる。出荷は11.4千m³と実需に迫力が窺えない。在庫は53.6千m³に増加したが、一時的なものと冷静に受け止められている。

5. 合板

東日本の合板メーカーではカラマツ原木、西日本メーカーではスギ原木が慢性的に不足している。ただし、出荷量も減少していることから生産には影響していない。国産合板は8月のお盆前後とも荷動きは低調で、ルート系を中心に当用買いとなった。プレカット工場でも受注低調による稼働率の低下で発注量の調整をしている。国産合板は8月に価格が一旦横ばいとなったが、9月は継続して値上げのアナウンスが発信されている。7月の国内合板生産量は21.4万m³、うち針葉樹構造用合板は19.4万m³、出荷量は19.0万m³、在庫量は16.1万m³で前月より4,000m³増加。輸入合板の荷動きは低調だったが、現地コスト高、為替の円安により先々の入荷分は値上げとなる。7月の合板輸入量は18.6万m³（前月比109.5%）となった。

6. 構造用集成材（国内産）

8月の弊社ラミナ入荷量は前月に比べ29.1%減少。在庫に不足感は感じられないが、強含みのWWラミナや120幅ラミナに依然不足感が見られる。第3・四半期契約価格は€290～€300/m³程度。RWラミナは€10～€15の上昇。為替は172円/€付近の円安で集成材価格はかなりの値上げ圧力となっている。8月の受注状況は前年同月比およそ104%。長物や尺上の価格は強含み。原料高・製造コスト高の影響により価格は上げ相場である。7月の構造用集成材の輸入量は小断面26,667 m³（前年同月比27.8%減）、中断面16,466 m³（同49.5%減）。9月以降の住宅着工は秋口に向け伸長すると予想され、木材価格は秋口以降値上げの可能性が高い。

7. 木材チップ（東海）

原木の入荷は製紙・バイオマス発電用ともに例年並みで順調に推移している。バイオマス発電用及び製紙用ともに小径材（C材）の引き合いが強い。燃料材は、震災廃棄物の石川県外への搬出は大幅に減少し、処理に目途が付いてきた模様。解体物件が減少し、仕事の取り合いとなり入荷は悪い。消費は製紙用、燃料用ともに製紙大手の定修終了・生産再開となり増加中である。在庫は解体物件の減少、大手の定期修理終了・生産再開が重なり、燃料用の在庫が不足している。

8. 市売問屋

記念市が4日にあったが、材木店は仕事が少ないためか売れ行きは良くない。国産材構造材はプレカットの仕事が少ないため材の荷動きが悪くなっている。外材構造材も市場では梱包で買う人はいない。造作材では国産材はスギが仕事の減少のためか必要量しか売れず、外材も売れ行きは悪く単価も高い。小径木がバイオマス工場に買われているためかスギ、ヒノキの9.0cm角×4.0mが減少している。

9. 小売

盆明け後も低調な荷動きが続いている。国産構造材は、原木価格の高止まりや製材コスト上昇などから製品価格は強含んでいるが、市況は冷え込んでおり引き合いは少ない。現状は保合で丸太価格を反映できていない。外材構造材も実需不足が影響し、Wウッド集成管柱を中心に仕入れコストは上昇しているが、国産構造材が価格据え置きとなったことから値上げが通りづらい状況が続いている。8月の首都圏プレカット工場の稼働状況は、稼働日数が少なく平均して7割～8割台の低調な稼働となった。需要が前年並みの水準に戻りつつあり、集合住宅や非住宅は堅調な仕事量で、9月以降の受注・稼働率上昇に期待感が出ている。

参考資料

(一財)日本木材総合情報センター

令和7年9月22日

1. 主要外材入出荷在庫量

		入荷量	出荷量	在庫量
米材	丸太	→	→	→
	製材品	→	→	→
欧州材	製材品	↘	→	↘
北洋材	製材品	↘	→	↘

注) 北洋製材品は東京・川崎

矢印の表示は今月に対する翌月の動向を、下記の様に示したものである。

- ↑ 急増・急上昇
- ↗ 増加・上昇
- 横ばい
- ↘ 減少・低下
- ↓ 急減・急落

2. 合板供給量

国内製造量	輸入量		
	計	インドネシア	マレーシア
→	→	→	→

3. 価格動向

樹材種	形状	取引条件	樹種・寸法等	動向
国産材	丸太	卸売価格 (北関東、県内産 市場土場渡し)	スギ柱材(3m) 2等	↗
			スギ中丸太(3.65m) 2等	↗
			ヒノキ柱材(3m) 2等	→
			ヒノキ中丸太(4m) 2等	→
	製材品 (関東近県産 板は東北産)	首都圏・市売り 価格	スギ柱角(KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
			スギ柱角(KD) 12.0×12.0×3m 特等	→
			スギ間柱(KD) 10.5×3.0×3m 特等	→
			スギ加工板 1.3×18.0×3.65m 特等	→
			スギタルキ3.0×4.0×3.65m	→
			ヒノキ柱角(KD) 10.5×10.5×3m 特等	→
ヒノキ柱角(KD) 12.0×12.0×3m 特等	→			
ヒノキ土台角(KD) 10.5×10.5×4m 特等	→			
ヒノキ土台角(KD) 12.0×12.0×4m 特等	→			
米材	丸太	産地価格	米マツ ISタイプ	→
		国内卸売価格 (京浜・オトラ)	米マツ ISタイプ コースト	→
	製材品 (カナダ産・ 現地挽き) (国内挽き)	東京・問屋店頭 渡し価格	米ツガ桁角(KD) Std&Btr S4S 10.5×10.5×4m	→
			SPF 2×4 J-Grade R/L	→
米ヒバ土台角(GR) Std&Btr 4・13/16” 13’	→			
米マツ平角(KD) 特等 10.5×24.0×4m	→			
欧州材	製材品	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド ラミナ 2.4×11.0×3m上 ラフ乱尺	↗
〃	〃	〃	間柱類 3.0×10.5×2.985m S4S FOHC	→
北洋材	製材品	北陸・オトラ	アカマツ原板(KD) 40×165 1~3等	→
		京浜・オトラ	アカマツ(KD) 30×40上級	→
			アカマツ(KD) 24×28 積木	↘
構造用 集成材	国内産	東京・問屋店頭 渡し価格	ホワイトウッド 集成柱 JAS 5プライ	↗
			レッドウッド集成梁 JAS 105×150~360×3.985	↗
	スギ 無化粧 JAS 5プライ		→	
	ホワイトウッド集成柱 JAS 10.5×10.5×2.985		→	
欧州産	〃	〃	レッドウッド集成梁 JAS105×150~360×3.985	→
		〃	〃	〃
合板	国産	東京・問屋店頭 渡し価格	タイプ2 F☆☆☆☆ 2.3mm厚 3×6	↗
			タイプ2 F☆☆☆☆ 4.0mm厚 3×6	↗
			型枠 12.0mm厚 3×6	↗
			針葉樹構造用 12.0mm 3×6 F☆☆☆☆	↗

注) 令和6年4月調査よりレッドウッド集成梁(国内産、欧州産)、アカマツ原板を追加